

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	じゃんぐるHIRO		
○保護者評価実施期間	2026年 1月 5日		2026年 2月 10日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	41	(回答者数) 25
○従業者評価実施期間	2026年 1月 5日		2026年 2月 10日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	14	(回答者数) 14
○事業者向け自己評価表作成日	2026年 3月 9日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	個別療育を主におこなっているため、児童のストレンスをしっかり把握して保護者とも共有しながら専門知識を要するスタッフが配置されているため(有資格者)多角的に児童を評価し療育できる。	困り感に焦点を当て、保護者と他の連携施設とコミュニケーションをとりながら対象者の児童の適切な関わりの中で発達を促進し、相談しやすい環境を作る努力を常に務めている。	できるだけ保護者同士の集まりや意見交換の時間と場所を作る機会を設ける。
2	相談しやすい環境を作り、保護者や対象児童が笑顔になれるように正のフィードバックを常に行い、児童のストレンスに焦点を当てていく努力をしている。	様々な立場のスタッフから意見を聞くことで1つの事例についているんな側面から捉えることができ、自分の関わり方にとらわれすぎず、多方面からのアプローチができるようにしている。	外部指導者の研修は行っているが、さらに回数を増やし、記録に残し、日常の療育に汎化できるようにしていく。
3			

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	1対1の個別でじっくりと寄り添いながら関わる事ができる反面、一斉指示が入らない、他とトラブルになるなど集団の中で困り感がなかなか表出しにくいところ。	他者とのトラブルや集団についての困り感が表面化しにくいため、特性を知ることによって予測をし、起こるであろう課題を抽出して療育を行ってはいるが、実際の保育の場面について情報収集を定期的に行えるようにしていきたいが、時間的に難しい時がある。	ノートや違う媒体(ソーシャルネットワーク)等を駆使してできるだけコミュニケーションをとれるようにする。
2			
3			